



スコープ定義スキル 活用ガイド

本ダウンロードコンテンツについて

本ドキュメントは、ANDGATE METHODS「スコープ定義」の思想を、作業全量の洗い出しから責任分界点の確定まで5フェーズで完全再現するためのClaude専用スキルの活用ガイドです。

■ 動作確認済み環境

本コンテンツは、以下の環境において正常な動作を確認しております。

- **OS**: macOS / Windows
- 推奨ツールおよびモデル:
 - **Claude Desktop**(一般利用者向け): Opus 4.6 / Sonnet 4.6
 - **Claude Code**(開発者・CLI利用者向け): Opus 4.6
 - **Claude Cowork**(チーム並行作業向け)
- 配布形式: ZIP形式

■ ご利用の際の注意点

- **PC環境を推奨**: ZIPファイルの展開やプロンプトのコピー＆ペースト操作が必要なため、**Windows**または**Mac**の**PC環境**での操作を強く推奨します。スマートフォン、タブレット、Chromebook等での動作確認は行っておりません。
- **他環境での動作**: 上記以外のOSや、旧バージョンのAIモデル、他社生成AI(ChatGPT等)では、設計通りの動作にならない、あるいは十分なパフォーマンスを発揮できない場合があります。
- **仕様変更**: AIモデルのアップデート等により、予告なく動作や出力結果が変化する場合があります。あらかじめご了承ください。

スコープ定義スキル

RFP・議事録・ヒアリング情報から、「何をやるか」「誰がやるか」「やらないこと」「揉めそうなこと」を整理したスコープ定義表(md)を自動生成するClaude専用スキルです。

全工程マスタからの引き算方式で作業の全量を洗い出し、実施推奨・非推奨を自動判定します。責任分界点(自社・クライアント・未定)とグレーゾーンを明確化し、プロジェクト後半の「誰がやるか」問題と炎上を事前に防ぎます。

成果物	効果
スコープ定義表	全工程マスタからの引き算方式で作業を全量洗い出し。実施推奨・非推奨の理由付きで出力するため、除外根拠が記録として残る。
責任分界点の明確化	各作業を「自社・クライアント・未定」に分類。「誰かがやるだろう」という曖昧さを排除する。
グレーゾーン検出・リスク警告	揉めやすい15パターンを事前チェック。「データ移行の不備修正は誰が？」などの問題を着手前に潰す。

こんなときに使えます

- スコープ定義表を一から作りたい。
- ヒアリングシートやRFPから作業範囲を整理したい。
- 責任分界点を明確にしたい。
- 見積もり前の作業洗い出しを漏れなく行いたい。
- 「誰がやるか」が曖昧なまま進みそうで不安なとき。

想定しないユースケース

- WBS・ガントチャートの作成 → スコープ定義表が起点です。詳細なスケジュールは別作業です
- コスト見積もりの算出 → 別作業です
- ステークホルダーとの合意形成の実施 → 出力はたたき台です。合意形成はPMが行ってください
- 個別設計書・ランブックの作成 → スキルはスコープの定義のみです

禁止事項

以下の情報は入力しないでください。

- 認証情報(パスワード・APIキー・IPアドレス・内部URL)
- 個人情報(氏名・メールアドレス・電話番号・住所)
- NDA対象の金額・単価・見積もり内訳

以下は匿名化してから入力してください。

- クライアント正式名称 → コードネーム(例:O社・A社)
- サーバ名・ホスト名 → 汎化名(例:Web-01・DB-01)
- 社内システム名 → 汎化名(例:基幹システムA)
- 担当者個人名 → 役割名(例:顧客側PM・情シス担当)

ファイル構成

None

methods_MP-001_scope-definition.zip

scope-definition/

SKILL.md

スキル本体

README.pdf

本ファイル

references/

process-master.md

全工程マスタ(8大工程・80+作業項目)

grey-zone-checklist.md

グレーゾーンチェックリスト(15パターン)

使い方1: Claude Desktop で使う(推奨)

Claude Desktop の「プロジェクト」機能を使ってスキルを登録します。

Step 1: プロジェクトを作成する

1. Claude Desktop を開く
2. 左サイドバーの検索欄の下にある プロジェクト をクリック
3. 「新しいプロジェクトを作成」をクリック
4. プロジェクト名を入力(例: **スコープ定義スキル**)

Step 2: プロジェクトナレッジにファイルを追加する

プロジェクト画面の右側にある「プロジェクトナレッジにコンテンツを追加する」から、以下のファイルをアップロードします。

#	ファイル	説明
1	SKILL.md	スキル本体。 Claudeへの指示が記述されています。
2	references/process-master.md	全工程マスタ(8大工程・80+作業項目)。スキルが内部で参照します。
3	references/grey-zone-checklist.md	グレーゾーンチェックリスト(15パターン)。スキルが内部で参照します

Step 3: カスタム指示を設定する(任意)

プロジェクト画面の「カスタム指示を設定」に、以下のように追記するとより効果的です。

None

あなたはプロジェクトナレッジに登録された「スコープ定義スキル」を活用して回答してください。
スコープ定義表の作成や責任分界点の整理に関する相談があった場合は、SKILL.md に記載された5フェーズのワークフローに従って支援を行ってください。

Step 4: 使ってみる

プロジェクト内のチャットで自然言語で依頼するだけでOKです。

スキルを起動すると、最初に以下の情報を確認します。事前に整理しておくともスムーズです。

- インプット: RFP・議事録・ヒアリングシート・見積もり依頼書等(なくても進行できます)
- 案件属性(2点): 自社の役割(infra_only・full_pm・app_included・ops_only)・コンプライアンス要件の有無

None

例: RFPからスコープ定義表を作成

この見積もり依頼書からスコープ定義表を作って

例: 議事録から作成

この議事メモからスコープ定義表を作成してください。自社の役割は infra_only です

例: 責任分界点の整理

このプロジェクトの責任分界点を整理したい

例: グレーゾーンだけ確認

グレーゾーンチェックだけかけてほしい

チェックポイント

スキルは全量洗い出しの後、「実施推奨の作業リスト」と「除外候補の作業リスト」を提示します。ここで追加・削除を確認してから、責任分界点・グレーゾーン検出に進みます。

出力の精査ポイント

1. ● 未定(要確認)が残っている作業は、必ずクライアントと協議して確定させる。
2. 除外理由の記述を確認し、後からの防衛線として活用できる内容か確認する。
3. グレーゾーン警告が出た項目は、着手前にステークホルダーと合意する。
4. 出力はあくまでたたき台、案件固有の文脈に合わせて調整して使用する。

出力形式

形式	ファイル名	構成
md(デフォルト)	[クライアント名]_スコープ定義表 _[PJ略称].md	案件属性 作業一覧(実施推奨・非推奨・除外) 責任分界点 グレーゾーン警告

参考資料(references/)

ファイル	内容
process-master.md	ウォーターフォール全工程の作業マスタ。要求分析～運用保守の全作業項目と役割マッピング(infra_only・full_pm・app_included・ops_only)を収録。
grey-zone-checklist.md	Sler案件で揉めやすい15パターンのグレーゾーンチェックリスト。「ユーザーの期待 vs ベンダーの現実」と推奨スコープの切り方を収録。

使い方2: Claude Cowork で使う

非エンジニアの方には、デスクトップアプリ「Claude Cowork」からのご利用を推奨します。スキルのインストールはGUI操作のみで完結します。

配布ZIPファイル(methods_MP-001_scope-definition.zip)をそのまま使用します。ZIPを展開する必要はありません。

Step 1: スキルをアップロードする

1. Claude Cowork を開く
2. 右上の「Customize」をクリック
3. 「Skills」タブを選択
4. 「+」ボタンをクリックし、「Upload a skill」を選択
5. methods_MP-001_scope-definition.zip を選択してアップロード

Step 2: 使ってみる

アップロード後はチャット画面から自然言語で話しかけるだけでOKです。操作方法は Claude Desktop と同様です。

None

例: スキルを起動する
スコープ定義表を作って

使い方3: Claude Code (CLI版)で使う

開発者の方や、ターミナルから利用される場合は、以下のパスに配置してご利用ください。
まずZIPを展開し、フォルダをコピーします。

None

```
cp -r scope-definition ~/.claude/skills/scope-definition
```

またはシンボリックリンクで登録する場合：

None

```
ln -s "$(pwd)/scope-definition" ~/.claude/skills/scope-definition
```

補足: Claude Code をお使いの場合

スキルの起動はスラッシュコマンドまたは自然言語で行えます。

None

```
/scope-definition
```

または、以下のように自然言語で話しかけてください。

- スコープ定義表を作って
- 責任分界点を整理したい
- この見積もり依頼書からスコープを洗い出して
- グレーゾーンチェックをかけてほしい

免責事項

【重要】本スキルの動作環境および免責事項

本資料は、Anthropic社が提供するAIモデル「Claude」専用のスキルセットです。他社AI環境での動作は意図しておりません。

本資料は、スキルの動作を補助するものであり、生成される回答の正確性、完全性、または特定の目的への適合性を保証するものではありません。

免責事項

当社は、本コンテンツおよびそれを利用した成果物について、その完全性、正確性、有用性を保証しません。利用者は自己の責任において本コンテンツを利用するものとし、利用の結果、利用者または第三者に生じた不利益、不具合、損害（法的責任、データの損失、業務中断を含む）について、当社は理由の如何を問わず、また予見可能性の有無に関わらず一切の責任を負わないものとします。

Provided by **ANDGATE, Inc.**